

# 児童虐待防止へ 情報提供が大切

## 大阪市対策室長が講演

相次ぐ児童虐待事件を受け、大阪大淀ロータリークラブ(西尾誠一郎会長)は22日、「虐待から子どもを守ろう」をテーマに大阪市北区の大淀コミュニティセンターで講演会を開いた。

講師は、大阪市子ども相談センターの市村好弘・児童虐待対策室長。市村室長は、昨年9月に設置した24時間対応の「児童虐待ホットライン」に3月末までに2000件近い電話が寄せられたと紹介。昨年4月に大阪市西淀川区で小学4年女児が衰弱状態で放置され、死亡した事件を例に、情報提供の大切さを訴えた。

また、虐待の原因として、  
①ストレス②孤立③親自身の  
成育環境——を挙げた。  
西尾会長は「虐待は大きな社会問題で、いつ身近で起きるかわからない。いざという時のための心構えを」と話した。

平成22年(2010年)5月23日 日曜日

## 産 経 新 聞

# 虐待の兆候を見抜こう

## 大阪大淀RCが映画上映と講演会

児童虐待の防止を地域の取り組みとして考えようと22日、大阪大淀ロータリークラブ(RC)が大阪市北区の大淀コミュニティセンターで「虐待から子どもを守ろう」をテーマに、映画上映と講演会を開催。同区民らに参加し、虐待さ

開いたもので、父親からの虐待で心を閉ざした少年のために、地域の老人たちが力を尽くす姿を描いた映画「いのち輝くとき」の上映に続き、大阪市子ども相談センターの市村好弘・児童虐待対策室長が講演。

れている子供を見抜くことの大切さを学んだ。  
大阪大淀RCが今年度の社会奉仕事業の一環として

「虐待を受けた子供は、暴力による体のダメージだけでなく、親に否定されることで、自尊心が持てな



虐待の防止は地域ぐるみでと訴える市村好弘・児童虐待対策室長

くなる。その結果として他人への思いやりも持てないなど、心理的ダメージも大きい」と訴えた。

また、虐待の兆候として、不自然にけが多い▽冬服が汚れて元気がない▽冬

に半袖、夏に毛糸のセーターなど季節に合わない服装などをあげ、「このような子供をみたら24時間対応のセンターの『児童虐待ホットライン』や区役所に通報を」と呼びかけた。